

オムロン vs 島津製作所：製造業における「知財AI変革」成功のロードマップ

オムロン：組織力で進める「スケーラブル型」変革



専用基盤「RD Buddy」によるセキュアな環境構築

AWS上に独自の生成AI基盤を構築し、閉域ネットワークと厳密なアクセス制御により、特許出願前の機密情報を安全に処理します。



全社プロジェクト「AIZAQ」による文化醸成

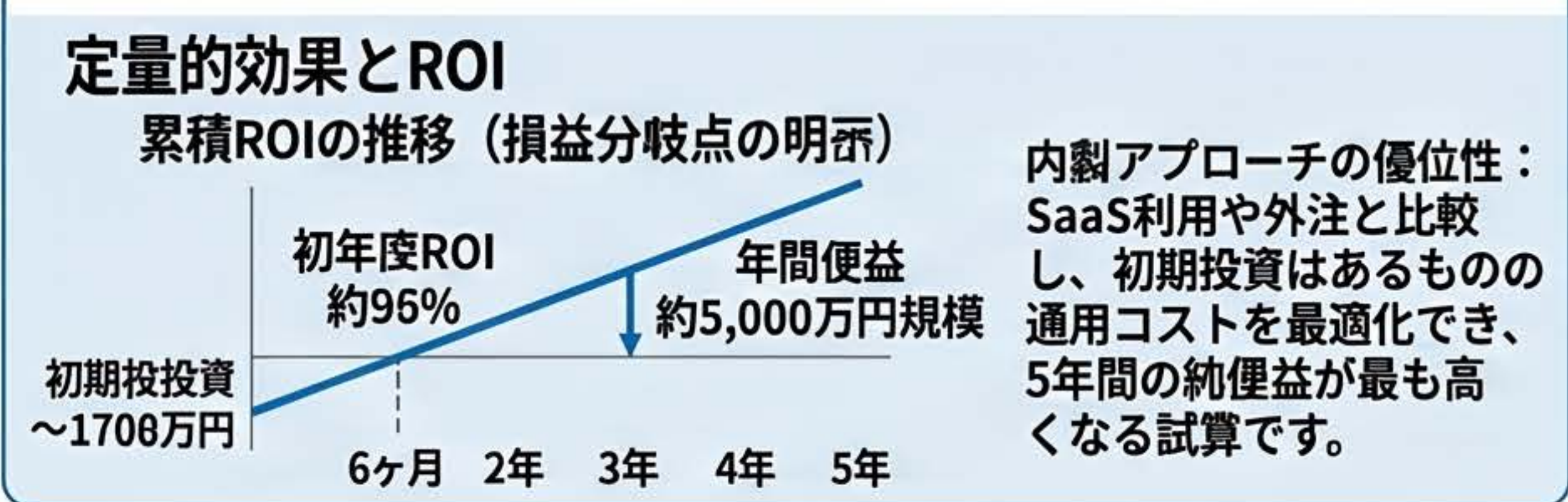
経営層のコミットと現場のボトムアップを融合。67種期の業務特化型プロンプト集を共有し、部員のAIスキルを3段階で評価する制度を導入しました。



知財AIエージェントによる業務支援

先行技術調査や発明説明書の作成工数を50%以上削減し、浮いた時間を「発明の壁打ち」や「戦略的IPランドスケープ」へシフト。





導入の背景と共通の課題



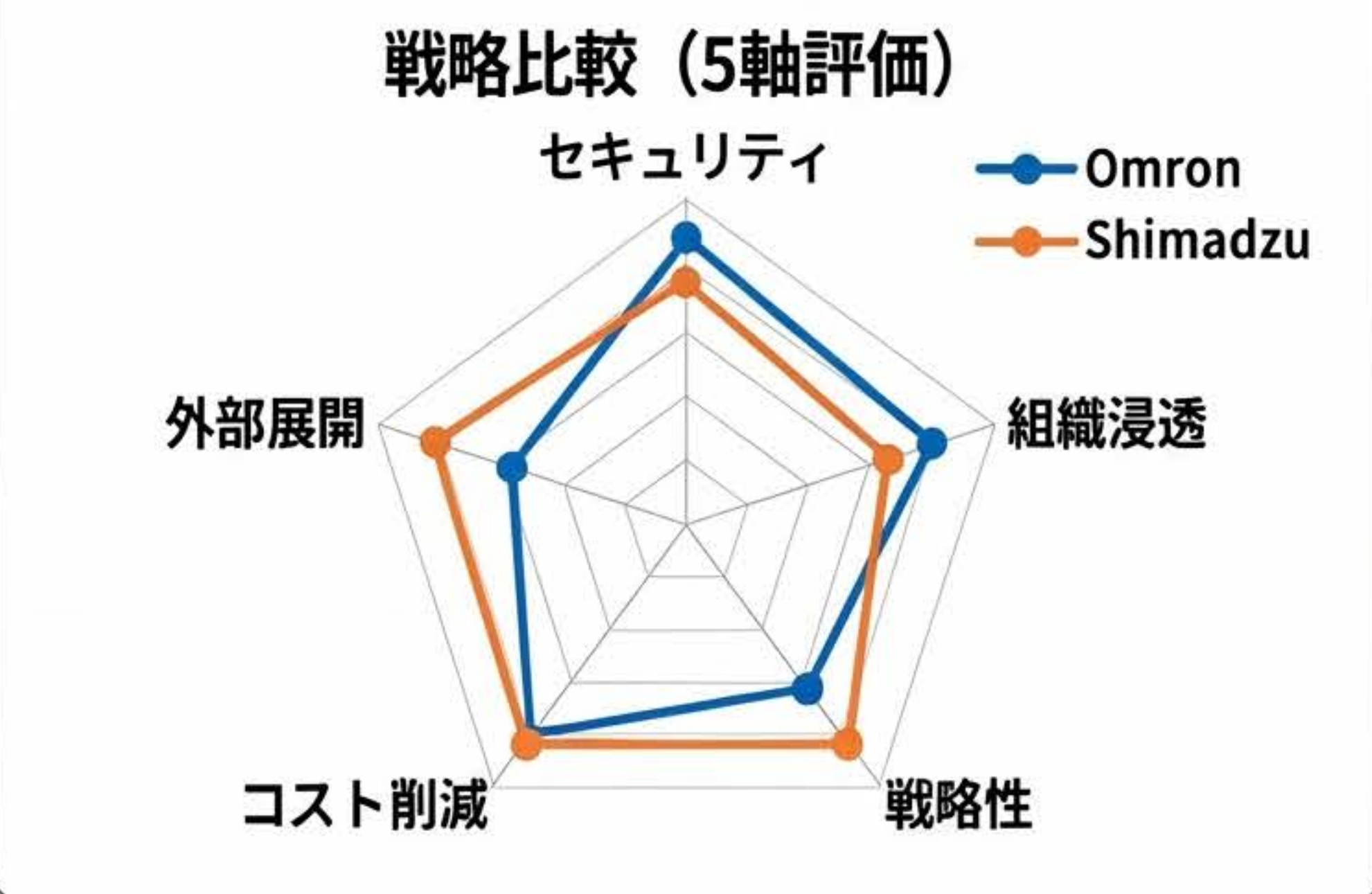
知財業務の「3高」課題：高負荷・高度専門性・高リスク

世界中で出願される膨大な特許情報の分析には多大な時間と労力がかかり、さらに機密情報を扱うためパブリックAIの利用には情報漏洩リスクが伴っていました。



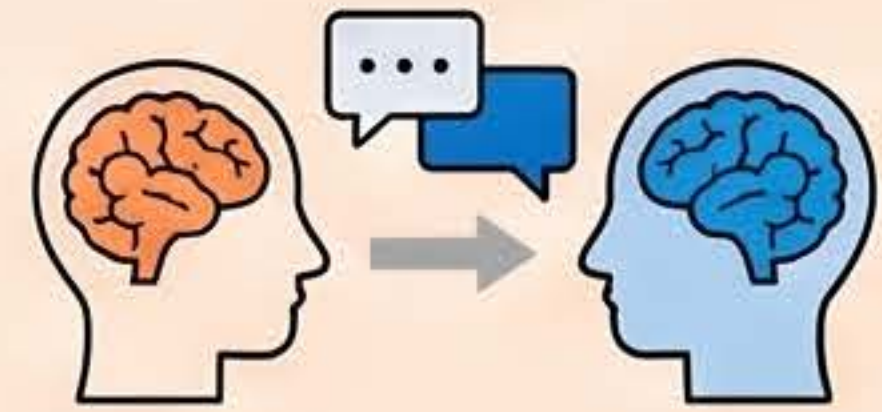
業務工数の削減ポテンシャル：最大50～90%

特許調査や明縮書作成などの定型業務において、AI導入により根本的な効率化が可能であることが業界全体で予測されています。



島津製作所：リーダーシップで突破する「事業化型」変革

「プロンプトドリブン」による暗黙知の形式知化



ペテラン知財部員の思考プロセスを徹底的に言語化し、詳細なプロンプトに落とし込むことで、AI主導の業務フローを確立しました。

驚異の削減率：他社特許スクリーニング90%削減



外部委託費の圧縮により、2025年度には年間約1.2億円のコスト削減を達成する見込みです。

知財部門をプロフィットセンターへ

社内ノウハウを外販するため、2026年に新会社「Genzo AI」を設立。2030年度に売上高15億円を目指す破壊的イノベーションを推進。

成功のための「3つの鉄則」

① **ガバナンスとインフラの先行整備**

情報漏洩を防ぐ閉域環境の構築と、IT・法務部門との合意形成がスタート地点となります。

② **プロンプトを「組織の資産」にする**

個人のスキルに留めず、検証済みの高品質なプロンプトを社内ポータルで共有・統制することが成功の鍵です。

③ **トップの「覚悟」が組織を動かす**

従来のプロセスを破壊的に変革するには、オムロンの「危機感」や島津の「断固たる方針」のような強い意志が不可欠です。

将来の展望：両社とも、生成AIによる知財業務の自動化・高度化を起点に、データドリブン経営への進化と新たな価値創造を目指しています。